

「登校が安定しない生徒の評価を見据えた授業づくりの工夫」
～新学習指導要領の3観点を踏まえた授業及び評価の工夫～

1 学校概要

本校は宮崎県内唯一の病弱特別支援学校であり、幼稚部・小学部・中学部・高等部の4つの学部を設置している。教育目標に「幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、個に応じた適切な指導及び支援を行い、そのもてる力を高めるとともに、学習上又は生活上の困難を改善・克服することによって、積極的に社会参加し、自立生活を営むことのできる心豊かな人間の育成を目指す。」ことを掲げている。自宅から学校に通学している幼児児童生徒、隣接する独立行政法人国立病院機構宮崎東病院「子どもの心の診療センター」に入院し学校に通学している児童生徒が在籍している。遠隔地に居住し通学が困難な児童生徒のために、寄宿舎が本校敷地内にあるが、今年度は休舎している。幼稚部・小学部・中学部・高等部では、それぞれ地域の幼稚園・小学校・中学校・高等学校に準ずる教育課程で教育を行う通常学級、知的障がいのある児童生徒に対応した教育課程で教育を行う重複障がい学級があり、発達の段階等に応じた指導を行っている。また前述の医療機関に入院していて通学が困難な小学部・中学部の児童生徒に教育を行う訪問教育学級を設置しており、一人当たり週6時間の授業を行っている。

幼児児童生徒の実態は、①慢性疾患により医療的な配慮を要する、②運動制限がある、③長期入院のため学習空白や経験不足がある、④継続して入院・加療を要する、⑤心身症等により二次的な障がいがある、など多様化している。

2 テーマ設定の理由

本校では、校内研究で令和元年度より新学習指導要領の実施に向け、「新学習指導要領を踏まえた学校づくり・授業づくり」を主題として研修に取り組み始めた。初年度(令和元年度)は、各学部の実態に応じて新学習指導要領の改訂のポイント・移行措置など、理論的な内容を中心に研修を深めた。

中学部の現状として、登校が安定しない生徒が多く、毎学期「教科によっては1時間も授業を受けていない」、「テストを受けていない」という実態があり、不登校傾向にある生徒に対する授業の進め方や評価の在り方が、課題として挙げられた。また、訪問教育学級から通常学級へ教育形態を変更した生徒について、訪問教育学級から通常学級へ変更した際の評価に関する課題も挙げられた。そして、高校入試等に向けて調査書を作成する際に、出席が極めて少ない生徒の場合、記載する観点別評価及び評定に苦慮するケースが増えてきている。

以上の実態から、令和2年度は「主体的に学ぶ」ことに焦点をあて各学部で研究を進めていく中で、中学部では、各教科で評価を見据えた日頃の授業づくりの工夫(欠席者に学習プリントや宿題を配付して評価に取り入れる、授業の始めに前時の復習を位置付ける、観点別評価を意識した授業やテスト作り等)が必要であると考えて中学部テーマとして設定した。

3 研究の仮説

評価を見据えた授業づくりの工夫を共有することができれば、欠席の多い生徒に対応した授業づくりを行うことができるであろう。

また、欠席の多い生徒にも対応した授業を工夫することで、その他の生徒も学習内容の理解を深めることができ、学習意欲が向上し、主体的に学ぶ場面が増えるだろう。

4 研究の方法

<内容>

- (1) 理論研修
- (2) 評価の工夫（各教科で話し合う、評価項目の整理、学部全体で共有）
- (3) 授業づくりの工夫（各教科での話し合い、授業研、事後研、学部全体での共有）

<組織>

- (1) 中学部全体
- (2) 各教科のグループ分け

5 研究の実際

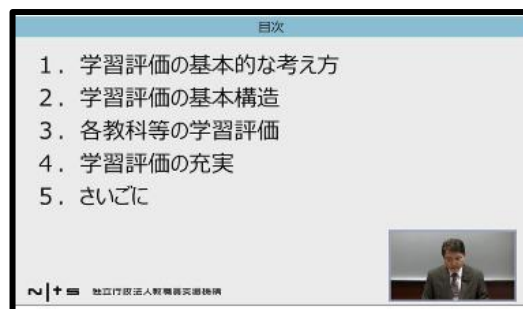
(1) 理論研修

新学習指導要領に対応した学習評価についての理論研修では、『学習評価の在り方ハンドブック』¹⁾を資料にし『新学習指導要領に対応した学習評価（小・中学校編）』を研修動画

²⁾の視聴をした。



¹⁾ 学習評価の在り方ハンドブック



²⁾ 学習指導要領に対応した学習評価の研修動画

(2) 評価の工夫

「登校が安定しない生徒に対する授業及び評価の工夫について」、「観点を踏まえた評価の工夫について」を各教科班で話し合いを行い、学部内で報告し合って情報共有を行った。「観点を踏まえた評価の工夫について」は、『学習評価の在り方ハンドブック』¹⁾を参考にして<観点別学習状況の評価について>と<学習評価の充実>という点から評価の工夫について話し合った。

以下に教科における実践例①～④を挙げる。

実践例①数学科： 欠席の多い生徒の評価項目について具体的に整理を行った。

実践例②国語科： 欠席の多い生徒でも評価・評定が出しやすいよう評価基準を明確化した。

実践例③英語科： 3観点を授業やテストでどのように評価するかを明文化した。

また発表評価表の工夫を行った。

実践例④理科： 生徒の自己評価の工夫を行った。

実践例①数学

数学科 評価の観点と内容			
	授業時	テスト	欠席が多い生徒
知識・技能	○学習活動や前時の振り返りの中で行う 演習等を通して評価する。 ・用語の意味を理解しているか。 ・計算等の問題が正答できたか。	○観点別に作成した問題から評価する。 ○知識に関しては、記述又は選択肢によって難易度の調整を行う。 ・用語を記述又は選択肢することができたか。 ・計算等の問題が正答できたか。	○宿題や小テストを出し、その内容から達成状況を評価する。 ・宿題や小テストにおいて計算等の問題が正答できたか。
思考・判断・表現	○学習活動時の発問に対する発表内容、ワークシートの記述内容を通して評価する。 ・説明の中で用語を正しく使用できたか。 ・考え方を計算式の記述や口述で示すことができたか。	○観点別に作成した問題から評価する。 ○記述又は選択肢によって難易度の調整を行う。 ・考え方を記述で示すことができたか。 ・正しい考え方を選択肢することができたか。	○宿題や小テストを出し、その内容から達成状況を評価する。 ・宿題や小テストで、問題に正答できたか。
主体的に学習に取り組む態度	○学習活動に対する取組や出席の状況、課題の提出状況から評価する。 ○できていることについて加点する形で評価する。 ○発表などの積極性に加えて、質問や「分からないので教えてほしい」といった意思表示の面からも評価する。 ・学習用具はそろっているか。 ・学習活動に取り組むことができたか。 ・課題に取り組むことができたか。 ・意見の発表や質問などを行うことができたか。	○授業の内容、数学の面白さや難しさについての感想の記述から評価する。 ・感想を記述することができたか。	○宿題や課題への取組の状況から評価する。 ・ワークシートに、自分で教科書を調べたり、他の生徒のワークシートを写したりするなどして取り組むことができたか。 ・課題に取り組むことができたか。 ・課題を提出することができたか。

実践例③英語

英語科

評価の工夫

発表評価表（自分の発表評価、ALTの評価、クラスメートからの評価）

1 自分の発表 生徒A

	wonderful	very good	good
声の大きさ	3	2	1
おぼえて発表	3	2	1
発音とリズム	3	2	1

感想 Great effort! You understood our and can't difference.

2 生徒Aさん

	wonderful	very good	good
声の大きさ	3	2	1
おぼえて発表	3	2	1
発音とリズム	3	2	1

感想 Great effort! You understood our and can't difference.

3 生徒Bさん

	wonderful	very good	good
声の大きさ	3	2	1
おぼえて発表	3	2	1
発音とリズム	3	2	1

感想 Great effort! You understood our and can't difference.

評価の観点の整理と評価表

1 中3 定期テスト・テスト結果

1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
聞く	ア	ク	サ	シ	セ	ソ	タ	チ	
1.2	1.0	1.3	1.5	2	1.7	4	1.0	9	

2 中1・2 定期テスト・テスト結果

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	合計
英語	表現	英語	表現	表現	理解	理解	理解	理解	理解	理解	
1.0	1.2	1.1	1.3	1.2	9	7	7	1	9	9	

3 評価の観点の整理と評価表

評価の観点	ALT授業の評価	対訳課題	確認テスト等	計	評価
① 知識・技能					
② 思考・判断・表現					
③ 主体的に学習に取り組む態度					

4 評価の観点の整理と評価表

評価の観点	ALT授業の評価	対訳課題	確認テスト等	計	評価
① 知識・技能					
② 思考・判断・表現					
③ 主体的に学習に取り組む態度					

○主体的で対話的な学び、学びに向かう人間性を育てることにつながるのではないかと考えられる

① 観点別の問題を作成し、評価に反映させる。

② 現行の評価の4観点5技能

- ・ 聞くこと
- ・ 読むこと
- ・ 話すこと
- ・ 書くこと

新学習指導要領の3観点5技能を整理

○ 3観点5技能の評価基準の共通理解を図る

○ 来年度も継続した支援や指導につなげる

観点を踏まえた評価の工夫

(3) 登校が安定しない生徒にも対応した授業づくりの工夫

担当する学級で指導の略案を授業者全員が作成して研究授業を行った。その後、事後研究を各教科班で行い、それぞれの授業研究を通して各教科に共通した「有効な手立て」として考えられたのはア～エの4点である。

- ア ワークシートの工夫
- イ 確認（ミニ）テストの工夫
- ウ 授業のパターン化
- エ 頑張りの可視化

この4つの実践例をまとめたものを以下に挙げる。

ア ワークシートの工夫

実践例⑤社会科： 主体的に取り組むための工夫。

教科書の重要語句のみを記入するワークシートは、取り組みやすく、主体的に記入するようになり、発表する場面でも自信をもって答えることができるようになった。

欠席した生徒には、授業の記録になり、課題として取り組むことができる内容になっている。

社会科

ワークシートの工夫

※工夫点と生徒の変容

- ① 記入量を減らすことで、書字の苦手な生徒でも主体的に取り組むようになった
- ② 教科書と同じ文を載せており、太文字の重要ワードのみ記入する支援を行うことで、分かりやすく、主体的に記入する様子がみられた。
- ③ 重要ワードのみの記入でさえも難しい生徒に対しては、記入済みの付箋やシールを準備し、貼ることで授業に参加することができた。
- ④ 欠席した生徒に対しては、授業記録になり、課題にもすることができた。



実践例⑥保健科： 文字よりイラストや写真を多く使用し、ポイントが分かるようにした。答えを○×にして簡素化した。

生徒が興味のあるイラストを載せることで、学習意欲の喚起を行った。

実践例⑦理科： 図や写真を多く入れることで視覚的支援を行った。

重要語句は、文字の濃さを薄くして印刷し、なぞり書きができるようにして書字が苦手な生徒の負担軽減を図った。欠席した生徒には、授業の記録になり、課題としても取り組むことができる内容になっている。

イ 確認（ミニ）テストの工夫

実践例⑧数学科： 前時の内容を振り返り問題として授業の始めに実施した。

欠席した生徒には、前時の学習のポイントを確認することができる。

用語はまとめて一覧にし、繰り返し書いて覚えるようにする。

実践例⑨理科： 授業の始めに前時の振り返りとして問題Bに、授業終わりに本時の確認として問題Aに取り組む。選択肢に○を付ける問題A、選択肢から選んで見て書く問題B、選択肢なしで取り組む問題Cの3パターンの問題を準備し、学習の習得段階に応じて取り組むことができるようにしている。

確認問題の精選

1年 理科確認問題 A

()月()日

1 下の図のAを何といいますか。

2 下の図の左のように花弁がつながっている花を何といいますか。

3 胚珠は成長して何になりますか。

1年 理科確認問題 B

()月()日

1 下の図のAを何といいますか。やく・柱頭

2 下の図の左のように花弁がつながっている花を何といいますか。離弁花・合弁花

3 胚珠は成長して何になりますか。種子・果実

1年 理科確認問題 C

()月()日

1 下の図のAを何といいますか。

2 下の図の左のように花弁がつながっている花を何といいますか。

3 胚珠は成長して何になりますか。

・A問題、B問題、C問題、解答をひとまとめにホッチキスに綴じる。

・自己採点し、結果をふりかえりカードに書き込む。

○ 確認問題の右上に単元名と番号があるため、ワークシートや振り返りシートとの関連ができ、管理しやすかった。

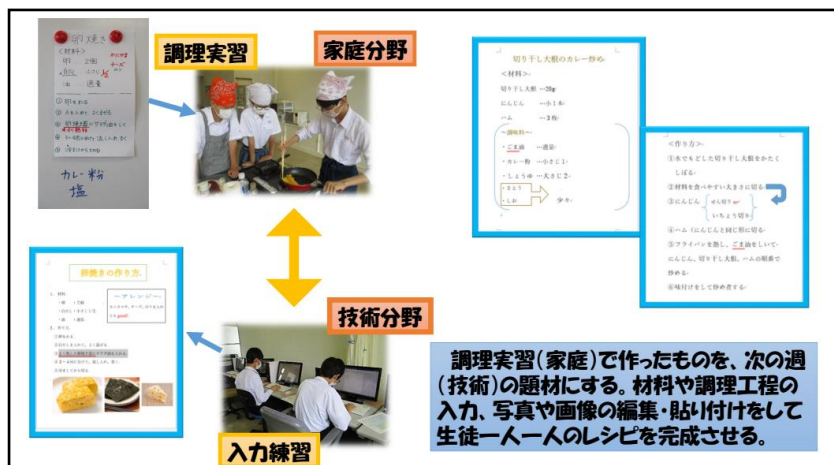
○ 問題数を3問に精選し、授業後にA問題、次の授業の初めにB問題、テスト前にC問題を解くという段階を踏んだことで、生徒への心理的負担を減らすことができた。

実践例⑩英語科： 学習したことを短時間で振り返ることができるよう授業終盤に実施した。

ヒントもあるので、取り組みやすい。

ウ 授業のパターン化

実践例⑪技術家庭科： 家庭科（調理実習）⇔技術（レシピ作りのパソコン入力）



授業の活動内容をパターン化することで、見通しをもつことができ、欠席した次の授業からでも出席しやすかった。

エ 頑張りの可視化

実践例⑫： 赤江銀行の取り組み： 出席した時間を時給 800円とし、週末に給料換算を行った。



写真1 赤江銀行の通帳

学習意欲、登校意欲につながり、大きな変容が見られた生徒もいた。

写真2 通帳を開いたページ

6 研究の成果と課題

(1) 成果

ア 理論研修

校内研修シリーズのオンライン講座²⁾を活用することで、コロナ禍にあり、外部講師の招聘が難しい時期でも講師の話を聞くことができ、学部全体で学習評価についての共通理解が図ることができた。

イ 各教科での評価の工夫についての話し合い

各教科班で話しあって評価について確認をすることができた。また、教科ごとに評価の観点を明確にしたことが授業の工夫改善につながり、学期末の評定にもつながった。

ウ 授業づくり

ワークシートや確認テストの工夫が学習意欲につながった。授業を受けたいと意欲を示す生徒が増え、授業が登校意欲につながっている生徒もみられるようになった。研究授業を実施して事後研究を行い、教科班で授業の成果と課題についてまとめたものを学部全体で共有したことにより、他教科の情報や効果的な指導について知ることができ、理解を深めることができた。

(2) 課題

目標と評価をリンクさせたワークシートになっていないところが一部あったという反省が挙げられた。目標－活動－評価を一体化したワークシートの作成、場面に応じたワークシートの提示のタイミングや使い方について検討を重ね、評価を見据えた授業づくりに今後も継続して取り組んでいく必要がある。

体調管理により欠席するために出席できる授業が限られる生徒もいる。コロナ禍にあり GIGA スクール構想が前倒しで実施されて、宮崎県においても ICT 機器の配備が進んで県立学校においては「Google Workspace for Education Fundamental(元)G suite for Education」が導入された。しかし、全教科において本格的な運用には至っておらず、全職員が効果的に授業で活用できるようになる研修計画等を立てることが課題として挙げられる。

<引用・参考文献>

1) 学習評価の在り方ハンドブック 文部科学省 国立教育政策研究所 令和元年6月

https://www.nier.go.jp/kaiatsu/pdf/gakushuhyouka_R010613-01.pdf

2) 新学習指導要領に対応した学習評価(小・中学校編):新学習指導要領編 No33

独立行政法人教職員支援機構 オンライン講座 新学習指導要領編(校内研修シリーズ)

<https://www.nits.go.jp/materials/youryou/033.html>